

基礎・基盤的取組

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 第4期と比べて、国環研が担っている研究分野が有機的に関連づけられて体系化されていると評価する。特に「基礎・基盤的」研究(研究インフラ(モニタリング、データベースなど)を含む)が適切に位置づけられており、将来にむけた研究の広がりや若手研究者の育成への波及効果が期待できる。
- 基本の6分野の研究テーマは多岐にわたるが、それぞれが、国環研が長く研究活動を続け育ててきた研究を土台として具体的であるためミッションの達成が期待できる。5年ごとにミッションをこのように整理することは重要な取り組みであり、よく考え練られていると評価できる。
- 国内外の研究機関との連携や研究推進の潤滑油としてのRA機能の強化(人材育成も含め)にも積極的に取り組んでいただきたい。外部資金の調達先として、クラウドファンディング受け入れの体制の整備も検討したかどうか。

今後への期待など

- 各分野がこれからの5年間、変わりゆく環境問題を柔軟に対応して取り組んでいただくことを期待する。
- 国際間での取組として、国が掲げる目標の実現のために、国民がなすべき行動変容の内容を示す方法について、国民がわかりやすく取り組めるリスクコミュニケーションをお願いしたい。
- 各研究者の基礎を重視することは研究者の発展だけでなく、組織の多様性にもつながるので、十分配慮したプロジェクト推進が必要である。特に、それぞれのプロジェクトは広い分野の関連性が重要で、深化する必要があるので分野構成がこれまでの研究センターに勝る基礎の重視を基本とする体制であることを期待する。

主要意見に対する国環研の考え方

- ① 第5期においても引き続き若手の育成や活動できる場の整備に努めていきます。同様に、第5期においても様々な技術の開発やシステムの構築が進むと思いますので、各プログラムや分野間での連動について推進できる取り組みについて検討します。
- ② 2021年度からは連携推進部を設置しており、所外との連携や研究推進の支援の強化を進めて参ります。また、外部資金の拡大につきましては、クラウドファンディングも含めた寄附金の受け入れ体制の整備も積極的に進めます。
- ③ 環境問題や社会の変化を良く注視し、必要な研究を適時に実施できるような体制を整えること、およびそうした研究をバックアップしてもらえよう、環境省などとの意思疎通を密に図っていくようにいたします。また、情報発信の方法についてもその重要性が年々増していることから、慎重に検討していきます。
- ④ 今中長期計画においては、より明示的に基礎基盤的研究を重視することが特徴の一つとなっております。プログラム研究を着実に推進するためにも、ご指摘いただいたような基礎の重視を基本とする体制の構築に取り組めます。